

遠隔授業観察システムを利用した学部学生の反応

—学部1年生初等中等教科教育実践（国語）Ⅰの場合—

余郷裕次*

学部1年生の授業（初等中等教科教育実践Ⅰ）の中で、実地の授業観察と遠隔授業観察システムを利用した授業観察を行った。その授業観察レポートでは、実地の観察と遠隔システムの観察との違いに言及させた。このレポートの内容から、学部レベルでは、実地の授業観察と遠隔授業観察システムとを共に実施することが、実地の授業観察、遠隔授業観察システムによる授業観察双方のメリットを引き出しやすいとの結論を得た。

〔キーワード：遠隔授業観察システム、実地の授業観察、国語の授業、映像、音声〕

はじめに

学部1年生の授業、初等中等教科教育実践（国語）Ⅰの中で、実地の授業観察と遠隔授業観察システムを利用した授業観察との双方を行った。

〈実地の授業観察〉

- 2006年1月11日 8:45～9:30
- 鳴門教育大学附属小学校1年2組
- 国語／横山武文教諭

〈遠隔授業観察システムを用いた授業観察〉

- 2006年1月18日 8:45～9:30
- 鳴門教育大学附属小学校1年2組
- 国語／横山武文教諭

この授業観察について、受講生にレポートを提出させた。その際、実地の観察と遠隔システムの観察との違いに言及するようにさせた。本稿では、このレポートの内容を検討することで、今後の遠隔授業観察システムの有効活用のヒントを得たい。

なお、遠隔授業観察システムの実践ノウハウ、システム改良については、本報告書の藤原伸彦他の論文を参照されたい。

Ⅰ. 映像について

実際に教室にいて肉眼で観察する場合と、遠隔授業観察システムの映像による観察との違いについて、次のよ

うなことが指摘された。

- 「実際に教室で見える場合では教室全体が見渡せるが、遠隔ではカメラの映すところしか見ることはできない。」
- 「実際に小学校に行って授業を見るのと、今日のように遠隔で見るのとではやはり見ている側としてはかなりの違いがありました。映像は思っていたよりもキレイに見えたのですが、自分の見たいところはすぐには見られずじれったい感じもしました。」
- 「今回実際に行って授業を観察したり、遠隔で授業を観察したりしたんですが、実際に見るのと遠隔で見るのでは違った印象を受けました。まず視線が違うことが大きな違いでした。実際に見る場合では教室の後ろの角に立って見たんですが、後ろ斜めから見たほうが生徒の視線や顔の向き、姿勢などが見やすいと思いました。遠隔だと、カメラが天井にあり角度が急なのと、距離が遠いのでどうしても生徒の顔が見にくく、視線などはほとんどわかりませんでした。また、生徒の手元もかなりズームしないと見えないため、生徒の作業を見るのに時間がかかりすぎるのも問題の一つだと思います。」
- 「実際小学校に訪問して授業観察をすると、一人ひとりの子どもたちの顔や表情がよく見え、細かいところまで注意を向けることができるけれど、遠隔による授業観察では全体しかカメラに写らず、子どもたちの表情などが見えませんでした。やはり遠隔での授業観察よりも自分の目で子どもたちを見ながら授業観察するほうが良いと思いました。」

* 鳴門教育大学言語系（国語）教育講座

- 「遠隔の授業観察では、上からの視点が多かったので、けっこう隅々まで見渡すことができました。思ったよりもしっかり観察することができたので驚きました。しかし、実際に見ているほうが子どもたちの表情をはっきり見ることができ、狭い範囲の中ですが、子どもたちがこの授業をどのように感じているかがわかることができました。また、実際に観察した場合は子どもが書いたことに対して尋ねることができ、そのことによってその子の考え方を知ることができると思います。それに、人に実際に見られているのとカメラに視られているのでは感じ方が違うと思います。やはり私は、カメラなどで観察するよりも実際に子どもたちのそばで子どもたちを見ていたいなと感じました。」
- 「附属小学校に行き授業を観察するのと違い、やはり教室全体を見渡すことができず画面の中の様子しかわからないので子供たちの活動の様子を部分的にしか観察できなかった。子供たちが書いているプリントにカメラがよっていても文字が小さかったり、ぼやけたりしていて、どのようなことを書いているかわからなかったもので少し残念だった。」
- 「また、教室で見るほうが子どもたちの表情や反応、雰囲気がよくわかるように思う。この部分が一番の違いだと思った。それでも、遠隔で子どもたちが書いている文字が見られたのですばらしいと思った。」
- 「実際に観察した場合と遠隔で観察した場合との違いについてです。遠隔による観察は、範囲がとても狭くて全体を観ることができないし、子供たちの声もあまり聞こえないし、子供たちそれぞれがどのような様子なのかわからなかったもので少し残念でした。実際に観察した方が近くでしっかりと観たり聞いたりすることができるので、もっと参考になったし勉強になったと思います。先生が配ったプリントも遠隔ではちゃんと見えづわりづらかったです。遠隔での観察でも学んだことはたくさんありましたが、実際に観察した方がいろいろなことに目をやり、いろいろなことに意識を持って観察することができると思いました。」
- 「遠隔操作での授業観察は教室全体の様子がとらえにくく、子供たちがどのように授業を受けているかが分かりにくかった。」
- 「まずじかに見ると教室の様子がよく見えまた生徒がどんなことを行っているのかがよくわかるということだ。また中継だと全体の様子がよくわかるので、いろいろな生徒の活動を見ることができた。中継を通してみると先生が結構いろいろと動いていることがわかった。どちらがいいとは言いがたいけれど両方とも私にとってかなりの収穫になった。」
- 「遠隔操作による授業を見ての感想は非常に状況がつかみにくいと感じました。特に児童の雰囲気がつか

みにくかったです。発表をしたり、先生が発問したことに、児童がどのような表情で答えているのか、どのような表情をして、わからないというサインを出しているのか、それらが実際の授業を観察するより、はるかにわかりづらかったと思いました。」

- 「実際授業を観察した、後で遠隔操作授業を観察して、私はやっぱり実際に授業を観察するほうがいいと思いました。その理由はいろいろありますが、わたしの中で大きな理由は、授業の雰囲気がかみにくいということ、生徒の表情がわかりづらいということ、そのときどきで、自分がきになったところを自由に見られないということです。だから、実際に授業は観察するほうがいいと思いました。」

遠隔授業観察システムの映像のデメリットを指摘するものがほとんどである。教室全体の映像も、また個々の生徒を捉える映像も、実地の観察に比較すれば、遠隔授業観察システムの映像に不満を感じたことがわかる。しかし、「中継だと全体の様子がよくわかるので、いろいろな生徒の活動を見ることができた。中継を通してみると先生が結構いろいろと動いていることがわかった。どちらがいいとは言いがたいけれど両方とも私にとってかなりの収穫になった。」など、遠隔授業観察システムのメリットを指摘する内容もあったのが救いである。

先に実地の授業観察を行った後、遠隔授業観察システムを用いた授業観察を行ったため、映像の違いが鮮明になったと考えられる。改めて教室での実地の観察の良さを痛感する結果となった。

遠隔授業観察システムを利用する場合は、実地の観察と組み合わせることや、観察の対象や目的を絞り込んで実施することが有効であろう。

II. 音声について

従来、ビデオカメラによる授業記録については、映像記録の性能に比べ、音声記録の性能の低いことが指摘されてきた。本遠隔授業観察システムでは、その点画期的な改善がなされているが、また、次のような指摘がなされた。

- 「そして、音声の点がかなりの問題点だと思います。教師が持っている一本のマイクに近づかないと音声拾いにくいため、教師の発言も生徒の発言もどちらも聞き取りにくいです。」
- 「マイクの集音が悪くてマイクを近づけて話さない子供たちがいくら大声で話してもほとんどスピーカーからは聞こえてこなかった。」

国語の授業の場合、音声聞きづらいと相当強い観察への動機付けでもないかぎり、観察に集中するのは難しいであろう。授業レベルで遠隔授業観察システムを利用する場合の今後の課題である。

Ⅲ. 教室の空気・雰囲気について

映像と音声の問題として片づけられない指摘が、「空気」や「雰囲気」についてのものである。教室という場の持つ「空気」や「雰囲気」は、観察経験の少ない学部1年生にとって、実地の授業観察と遠隔授業観察システムを用いた観察とで、特に相違を感じた部分であろう。

- 「遠隔では教室の空気が伝わってきにくい。」
- 「ただ、生に比べて、何か物足りなさを感じるのは否めない。」
- 「実際に見るのと比べると、教室の雰囲気を感じ取ることがとても難しいと感じました。」
- 「遠隔による授業観察をおこなって思ったことは、教室の雰囲気を感じにくいと思いました。」
- 「その場の空気を感じることが訪問して授業観察するとても大きなことだと思う。」
- 「実際に受けたときの方が先生の声の響き方や目の配り方、その場の緊張感を感じることができました。」

音声面、特に生徒の音読や発言や話し合いが、授業の重要要素である国語の授業においては、やはり実地の授業観察を優先させ、それを補うものとして遠隔授業観察システムを用いるのが適切であると考えた。

Ⅳ. 観察者としての立場性について

実地の授業観察に比して遠隔授業観察システムの優位性が指摘されたのが、この「観察者としての立場性」である。授業観察の経験が少ない学部1年生は、授業の雰囲気に飲まれたり、緊張して十分な観察ができなくなる可能性がある。しかし、遠隔授業観察システムでは、観察者として第三者的な立場が保持されたのであろう。

- 「実際に教室に行くと、観察する側の人数が多いと視点がバラバラになってしまうが、遠隔はひとつの画像をみんなで見るので話し合いはしやすいと思う。」
- 「実際に行われている授業に直に触れて、子供たちの反応や先生の対応を、自分の視点で追えるのはとてもよいことだが、ただ場の空気に飲まれやすく、視点が定まらないということもあり得る。その点、遠隔操作による授業は、第三者に徹することができ、より冷静

な視線でもって授業を観察できるだろう。実際にできたと思う。」

- 「遠隔操作の方は普通の生徒の様子が見れるのと、隣の友達と話し合いながら授業が見れることが違いだと思った。」
- 「実際見るよりも遠隔の方が客観的にみられたように思う。」
- 「遠隔の授業観察はより一層冷静かつ落ち着いて授業を観察することができたと思う。実際の教室で子どもたちの様子を見ることの方が直接ふれあうことができるので好きだが、今回遠隔では観察にかなり集中することができた。」

これらの指摘は、遠隔授業観察システムの利用した授業観察の有効性を示唆するものである。学部1年生の授業レベルでも、遠隔授業観察システムは、その利用法次第で大きな効果を発揮することが予測される。

Ⅴ. その他

学部1年生なりに、直接生徒を観察し、生徒と直接ふれ合うことの意義を感じた指摘など、次のような指摘があった。

- 「先週、実際に小学校に行ったときには、少しの時間ではあったけれど直接子どもたちと話したりして触れ合えたけれど、今回は遠隔だったのでもちろんそんなことは無理で、授業を見ているという感覚は私の中では少し薄かったです。」
- 「しかし、遠隔も悪いところばかりではなくよいところもあると思います。最も大きな利点は、遠隔だと他人の目を気にしなくてもいいため、普通の授業にできるだけ近い授業風景を見ることができる点です。今回の観察でも、実際に見たときよりも遠隔で見たときのほうが、生徒の私語が多くなったような気がします。また、一度に多くの人数で授業を観察できる点もいい点だと思います。実際に教室に入るとなると人数に限りがありますが、遠隔では何百人でも対応できると思います。」
- 「いろんな違いがありますが、私は実際に教室に行って生徒と触れ合うほうが好きです。」
- 「実際の授業観察と遠隔操作との違いで一番感じたことは、授業観察の方が印象に残りやすいのではないかと感じた。このレポートを書いているときにイメージとしてよく残っているのは学校に訪問したときの授業で、遠隔操作の方はあいまいな部分があった。」
- 「最後に生徒と触れ合えたことも大きい。」

学部1年生は、生徒と直接ふれ合うことに意義を感じると共に、生徒自身が心理的に観察されているという状況から脱しやすい点、何百人でもリアルタイムに観察できる点、実地の授業観察が印象に残りやすい点など、的確な指摘を行っている。

おわりに

学部1年生が「遠隔では教室の空気が伝わってきにくい。」と的確に遠隔システムの短所を指摘できたのも、先に実地の授業観察を行い、その後同じクラスの授業を遠隔授業観察システムを利用して観察したことによるとも考えられる。

○「子供たちがどこでつまずき、どこのかきだして迷っているのか、自分で自由に見られない分かりづらいなと感じました。また、授業の雰囲気ですごくつかみにくかったです。一度、見たことがある先生の授業なのでそれらは想像しやすかったのですが、まったく実際に見たことのない授業であれば、その授業の雰囲気はとてもつかみにくいのではないかと思います。」

学部授業の第一義が、授業観察・研究者の育成ではなく、授業者・教育者の育成にあるのであれば、実地の授業観察を主に行い、遠隔授業観察システムによる授業観察を従とするのが適切であろう。

また、遠隔授業観察システムの映像では、「目線などはほとんどわかりませんでした。」という指摘もあり、ハイビジョン化など、改良の余地があることも否めない。

参 考 資 料

学生のレポートの一例を示す。

「今回実際に行って授業を観察したり、遠隔で授業を観察したりしたんですが、実際に見るのと遠隔で見るのでは違った印象を受けました。まず目線が違うことが大きな違いでした。実際に見る場合では教室の後ろの角に立って見たんですが、後ろ斜めから見たほうが生徒の目線や顔の向き、姿勢などが見やすいと思いました。遠隔だと、カメラが天井にあり角度が急なのと、距離が遠いのでどうしても生徒の顔が見にくく、目線などはほとんどわかりませんでした。また、生徒の手元もかなりズームしないと見えないため、生徒の作業を見るのに時間がかかりすぎるのも問題の一つだと思います。そして、音声の点がかなりの問題点だと思います。教師が持っている一本のマイクに近づかないと音声拾いがにくいので、教師の発言も生徒の発言もどちらも聞き取りにくいのです。そのため、実際に見るのと比べると、教室の雰囲気を感じ

取るのがとても難しいと感じました。しかし、遠隔も悪いところばかりではなくよいところもあると思います。最も大きな利点は、遠隔だと他人の目を気にしなくてもいいため、普段の授業にできるだけ近い授業風景を見ることができる点です。今回の観察でも、実際に見たときよりも遠隔で見たときのほうが、生徒の私語が多くなったような気がします。また、一度に多くの人数で授業を観察できる点もいい点だと思います。実際に教室に入るとなると人数に限りがありますが、遠隔では何百人でも対応できると思います。

などいろんな違いがありますが、私は実際に教室に行って生徒と触れ合うほうが好きです。」